

市民文芸

短歌 阿南市文化祭秋季短歌誌上大会 選

入選 私達何を生きていたのでしょうか 「生活」

だった日を思い出せない 島尾 妙

入選 創部四年 甲子園への快挙なり阿南光高

われらの誇り 西崎まき子

入選 二回目のワクチンも終え行く夏と共に惜

しむか遠雷の鳴る 松島 博子

入選 タトゥは文化の違い高高とメダル掲げる

水泳選手 五島 秀子

入選 末枯れつつ赤きカンナが咲き継ぐにも少

し頑張れ老いを嘆かず 青木 弘子

入選 夕がけて土砂降り雨がやってきた朝から

鳴いてた虫達いずこに 長尾 久子

入選 沖合の大きなうねり台風を知らせてくれ

る晩秋の海 濱 末子

入選 懐かしき妣ははつくる味もう一度味わいたく

とも何かが違う 水口 明美

入選 稲刈りて気付く季節の一周り安堵もまじ

るコロナ禍のなか 米田 舞

俳句 阿南市俳句連合会 選

立春や朝に搾る蔵の酒

神原 鹿山

菜の花は空の青さを謳歌して

森 伸

街川に潮満ちてくる四温かな

喜来富士子

野の光六分咲きなる福寿草

神野千鶴子

入りて出る獣の爪跡庭の雪

水口 明美

冷え込みの日毎に太る崖氷柱

田中 栄子

先掛けて大地を割りし露の臺

宮繁ただし

パーティーの行く手を阻む春の雪

近藤ヤス子

曇るるや歩数気になる万歩計

山川 喜美

銀色に波立つ川面鳥雲に

大西 裕子

川柳 阿南川柳会 選

買い物でついでの品が多くなる

原 公美子

飲み会のついででマージャン朝帰り

福良 充雄

年一度会って命が若返る

持木 寿栄

ふる里は春の根雪の底の底

渡邊 浪漫

心からもらう幸せ夢かける

二階千代美

旅支度血圧薬万歩計

西田 修身

日向ぼこいつも隣の三毛が横

野口 吾朗

一般応募

画けぬのに絵にしたくなる船溜まり

秋川 和子

女子アナの服に疑う季節感

島尾美津子

コロナ禍に自由奪われふて腐れ

武田 敏子

漢詩 阿南漢詩研究会・青松吟社 選

春日郊行

高橋 静雄

春風習習弄輕裘

春風習習 輕裘を弄し

香誘鶯聲滿小丘

香は鶯声を誘いて 小丘に満つ

花發梅林千樹雪

花発いて 梅林千樹の雪

氷葩飛處放吟眸

氷葩飛ぶ処 吟眸を放つ

阿波の土柱

松原 伸夫

崖若屏風連壁回

崖は屏風の若く壁を連ねて回り

塊如天柱穿空嵬

塊は天柱の如く空を穿つて嵬し

神工鬼斧羽濤嶽

神工 鬼斧 羽濤が嶽

奇勝壯觀寰宇魁

奇勝 壯觀 寰宇に魁たり

※羽濤嶽—土柱中央部の称

初春の愉心

城満 航也

初春面壁不知時

初春の面壁時を知らず

心自然充只默思

心自然に充ちて只だ默思す

静夜梅香一千里

静夜梅香る一千里

青光太古華新奇

青光はただ古く華は新奇なり



【不知火(デコボン)】

不知火という品種で、ヘタの部分の出っ張りが特徴。甘みが強く、袋ごと食べられます。糖度13度以上、酸度1%以下の規格を満たしたものを「デコボン」とし、加温栽培と無加温栽培を組み合わせ、12月～3月に出荷されます。